

平成 28 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語・日本文化専攻 准教授
氏名 Name	小森 万里
専門分野 Academic Field	日本語教育学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	アカデミック・ジャパニーズのための日本語文法教育
<p>アカデミック・ライティングにおいて、日本語学習者が自らの意見を的確に表現し、読み手を説得することができるようになるために必要なことについて、文法教育の観点、および、内容面の観点から検討した。</p> <p>前者については、対人的なメタディスコースの観点から、どのような手段がどのような談話の流れの中で用いられるのかについて、日本、韓国、台湾の大学生による意見文を比較し、意見文における Hedge と Intensifier の使用状況の違いについて発表した（於 第 25 回日本語日本文化教育研究会）。また、日本語母語話者である大学教員の意見文と日本語学習者の意見文の比較を行い、学習者の意見文において読み手にわかりにくいと感じさせる箇所や、読み手の効果的な説得が難しいとみられる箇所について、対人的なメタディスコースの使用状況を考察した結果を発表した（於 カナダ日本語教師会 2016 年度次大会）。さらに、日本の大学や大学院に在籍する日本語学習者が日本語でレポートや論文を書く際に必要な文法を学ぶための文法教材『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）（共著）を執筆した。</p> <p>後者については、学習者が書いたレポートにおいて、語句・表現、内容が重複しているためにわかりにくいと読み手に感じさせる箇所（以下、重複）について、一貫性、論理性、結束性、卓越性の 4 つの観点から、それぞれの要素に関わる重複に分類して分析・考察を行い、さらに重複と判定されなかった文との比較をすることにより、重複を回避するためにはどのように教育で取り上げればよいのかについて検討した。その成果は、『日本語教育』164 号（共著）に掲載された。</p> <p>また、多様な日本語非母語話者が日本語教育学系科目にどのような期待をしているか、また、履修のメリットをどのように考えているのかについて調査し、これらの科目の意義と可能性を明らかにし、その成果を発表した（於 2016 年日本語教育国際研究大会）（共同研究）。</p>	